

福島第一原子力発電所 3号機 使用済燃料プール内の制御棒等 高線量機器取り出しについて

< 参 考 資 料 >
2023年2月22日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 3号機使用済燃料プール内の高線量機器取り出しについては、10月の「中長期ロードマップの進捗状況」に関する会見にて、概要をお知らせしています。
- その後、作業台車設置等の関連工事については、より安全に作業ができるように作業手順の見直しなども行っており、11月24日現在も工事中であります。
- この工事が完了次第、一連の作業を通して確認するワンスルー確認を実施し、その後準備が整い次第、取り出しを開始する予定となります。
- 10月の説明では、早ければ取り出しが11月末に始まるというスケジュールを示していましたが、精査したところ、当初予定よりは延びると考えています。

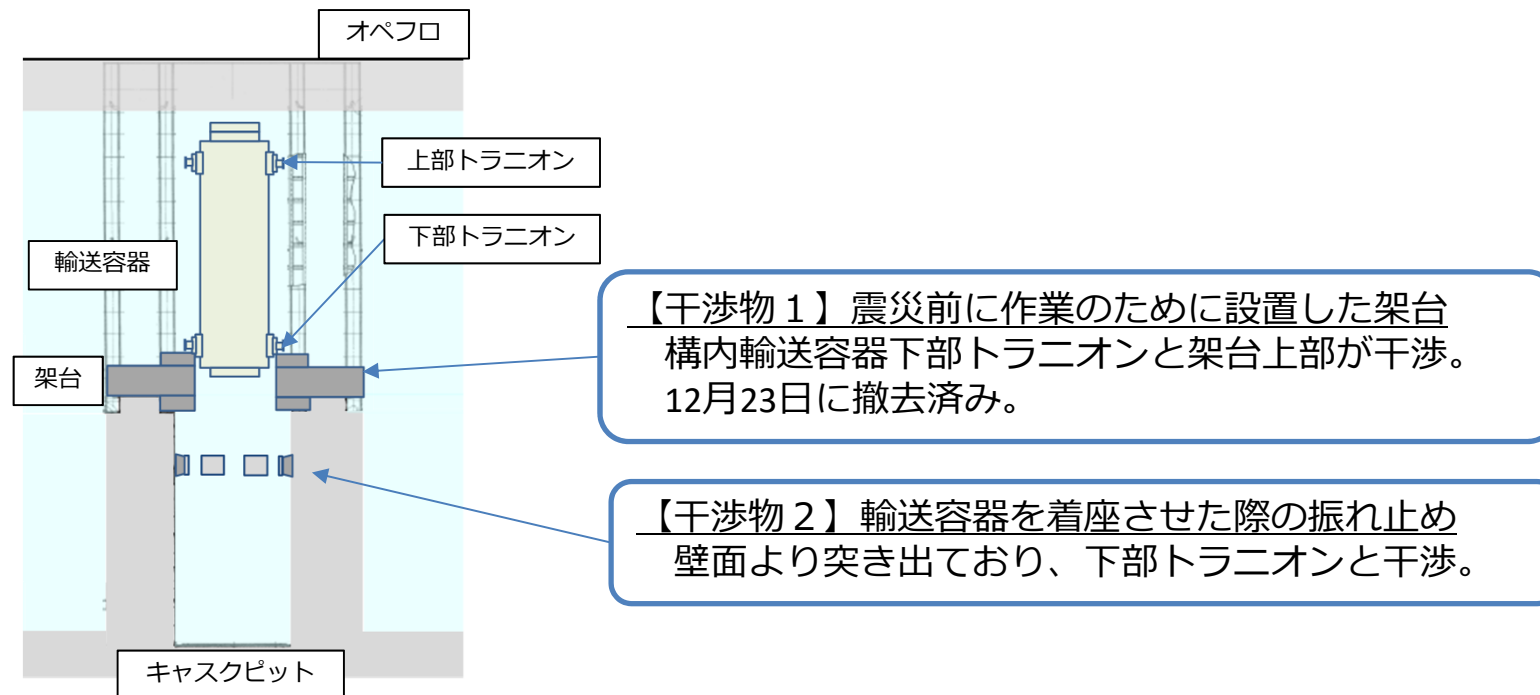
<2022年11月24日までにお知らせ済み>

- 作業台車設置等の関連工事については、より安全に作業ができるように作業手順の見直しなども行い、11月末までに関連工事を終えています。
- その後、高線量機器を運搬するための構内輸送容器を用い、空の状態で一連の作業を通して確認するワンスルー確認を実施する中で、構内輸送容器をサイトバンカ内のプールに吊り下ろして設置する確認をしていたところ、途中で干渉する構造物が2つあることが判明しました。
- 干渉物について、干渉物1は震災前に作業のために設置した架台であり、12月23日までに撤去を完了しています。
- 残りの干渉物2については、輸送容器を着座させた際の振れ止めであり、干渉の回避方法については、現在検討しています。

<2022年12月26日までにお知らせ済み>

干渉物の状況と今後の予定

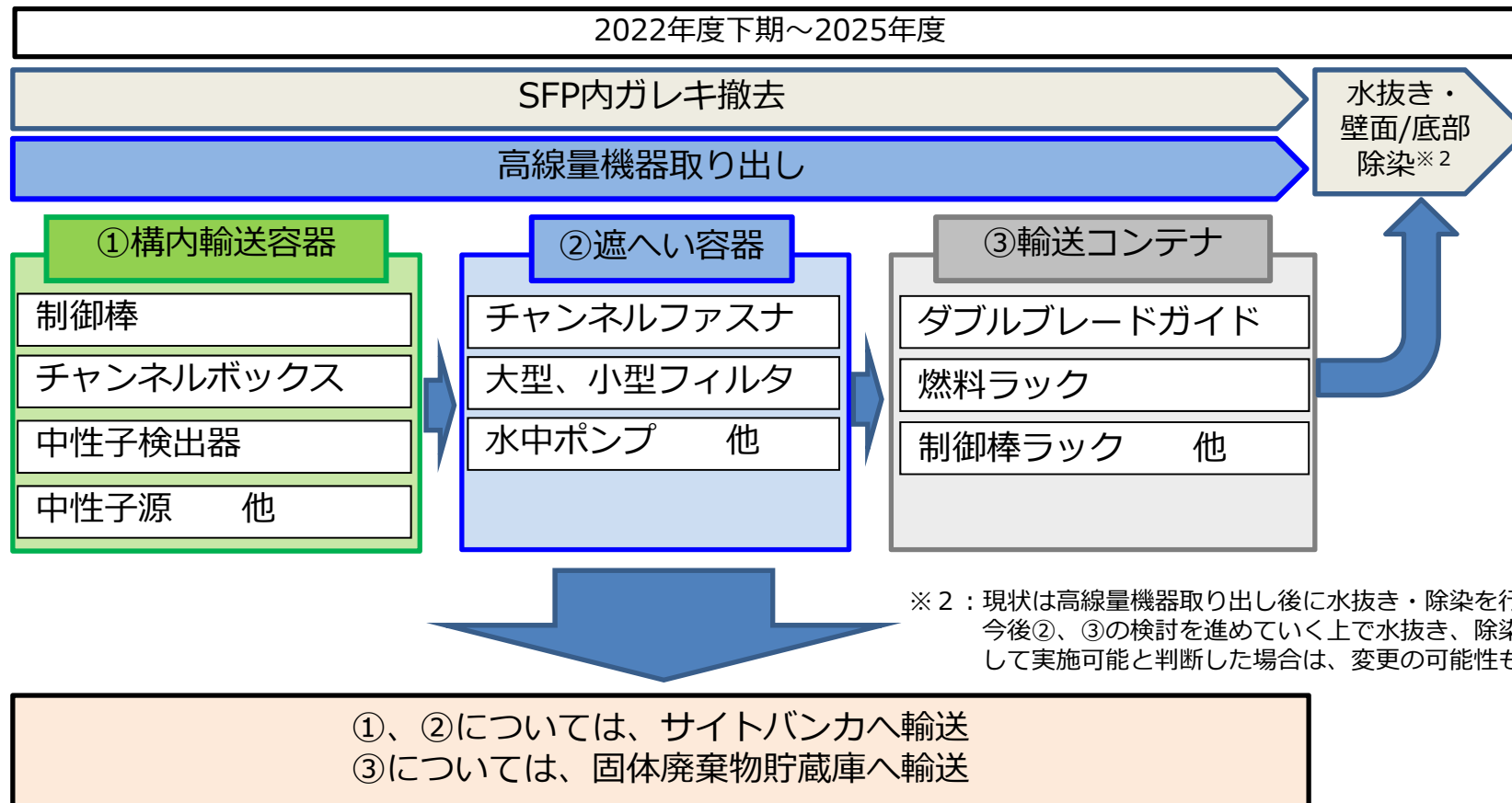
- 干渉物2との干渉回避方法として、サイトバンカ内プールでの構内輸送容器取り扱い時に使用しない輸送容器下部の吊り金具（トラニオン）を一時的に取り外すことで回避可能な見込みが立ちました。
- トラニオンは、構内輸送容器をトレーラーに積載する際に使用する吊り金具のため、取り外したトラニオンは輸送の際に再度取り付ける必要があります。この作業については準備が整い、本日（2月22日）までに実施可能と判断できたことから明日(2月23日)以降、ワンスルー確認を再開する予定です。まずは、構内輸送容器の下部トラニオンを取り外し、その後プール内へ構内輸送容器を吊り降ろす予定です。
- ワンスルー確認完了後、3号機高線量機器取り出しを予定していますが、開始時期については目処が立ち次第お知らせさせていただきます。



【参考】 3号機高線量機器※¹取り出し計画について

- 3号機 使用済燃料プール（以下、SFP）に貯蔵している制御棒等の高線量機器の取り出しを2022年度下期より開始する計画。
- 高線量機器の取り出しは、プール内のガレキの状況や機器の配置状況を踏まえ、制御棒の取り出しから開始する計画であり、3号機燃料取り出しに使用した構内輸送容器等を使用して既設サイトバンカや固体廃棄物貯蔵庫へ輸送、保管する計画。作業は下図の「①構内輸送容器」「②遮へい容器」「③輸送コンテナ」の順で実施する計画。

※1：高線量機器とは、SFP内に保管されている種々の物品を指す。



【参考】作業概要（3号機）

- 3号機内作業は、高線量機器の取り扱い以外は、燃料取り出し時と同じ手順で実施。



【参考】作業概要（サイトバンカ）

- サイトバンカ内作業は、低線量エリアであることから、有人にて実施。

